

式 辞

富山福祉短期大学 第二十二回卒業証書・学位記授与式

卒業生の皆さん、そしてご臨席はいただけませんでしたでしたが保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。また様々に本学の教育にご支援を賜りました方々に心からお礼を申し上げます。

今回の卒業式は、二十二回目の卒業式です。今回の卒業生百四十四名を加え、この二十二年間で本学から合計三千百十三名の卒業生が巣立って行きました。

この式典は単なる卒業式ではなく卒業証書・学位記授与式です。卒業証書は本学を卒業したことを証明するものであり、学位記は大学等の過程を修めたことの証です。そして短期大学の過程を修了した者には短期大学士の学位が授与されます。

では、学位を授与されるとはどのようなことなのでしょうか。各大学は学位授与方針（ディプロマポリシー）を定め、公開しています。そしてその学位授与方針に従って学位を授与しています。

本日、学位を授与された皆さんは、どのような方針のもとに学位を授与されたのかを再度確認いたします。

本学では「建学の精神」

1 質実にして明朗な人格形成

1 専門的な学問とその応用を通して社会に貢献する人格形成

に基づき、教育目標「つくり、つくりかえ、つくる」を実践躬行し、各学科の所定の単位を修め、以下を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。としています。そしてその内容は次のとおりです。

1. 人を理解するための幅広い教養と専門的な知識を持ち、専門職として人を支援するための基本的技術を有している。
2. 専門職として人権を尊重する高い倫理観を有し、専門的な知識を活用しながら、保健・医療・福祉・教育の関連職種と連携して、主体的に問題を解決する能力を有している。

3. 人や地域社会とあたたかい関わりをもち、円滑な人間関係を築き上げるコミュニケーション能力を有している。
4. 専門職として、よりよき社会の形成に自ら貢献する生涯学習力と実践力を有している。

皆さんは、これらの修得度について在学中に何度となく確認したと思います。本学では、その確認作業で得たデータを蓄え分析を行っています。そしてその結果で、皆さんは着実にその能力を伸ばしていることが確認できています。

先にも述べたように本学の教育目標は「つくり、つくりかえ、つくる」です。私は、専門職として社会に貢献する自分をつくり続けていくための自分づくりがこの「ふくたん」における使命であったと考えています。そしてその延長線上において皆さんが社会をも「つくり、つくりかえ、つくる」ことを期待しています。

ところで皆さんが貢献し、つくりつづけていく社会とはどのようなものでしょうか。

国語辞典を開くと「社会とは広い意味での共同生活を営むひとびとの集団」「狭義では特定の仲間意識を持つ人たちの集団を指す」と書かれています。

この人々が作り出す集団は時代とともに変化し、これからも変化し続けていきます。人口も、その構成割合も、街並みも、風景も、そこに働く人々も変化していきます。今の延長線上に未来があると考えられない時代がやってきています。当たり前が当たり前ではないことを考え、自分たちが自ら未来を見据えて行動することが求められています。

今、我が国では高齢化が進み、地域包括ケアという概念が生まれました。そしてこの概念は高齢者のケアだけではなく、全ての支援を必要とする人々へと広がってきています。厚生労働省も制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会、共生社会の実現に向けて動きだしました。

しかし、その途上では様々な災害や今回の COVID19 の感染の拡大などのようなことも起こり、これからも社会は大きく変化していきます。そんな不確定な未来で活躍する皆さんは、本学の教育目標である「つくり、つくりかえ、つくる」を合言葉に本学の共創福祉の精神を持って卒業後も地域と共に自分自身と地域を時代の変化とともに創り続けていく人になっていくと信じています。

おわりに

日本の精神科医、随筆家で「モタさん」愛称で親しまれた斎藤茂太（さいとう しげた）先生の言葉を二つ皆さんに送ります。

一つ目は

「大きくても 30 センチほどのヤマメと、その倍もあるサクラマスが、もともとは同じ魚だということをご存じですか？川での生存競争に敗れたヤマメの一部が、餌を求めて海へと下り、餌が豊富な海を回遊するうちに大型化したのがサクラマスなんだそうです。そのときは負けたように思えても、自分で自分に見切りをつけなければ、人生に「負け」なんてものは存在しません。人と競うのではなく、できることから少しずつ努力を重ね、昨日の自分よりちょっとだけでも成長しようと心がける。そうすれば、いつの間にか、サクラマスのようにグーンと大きくなっているはずですよ。」

そして二つ目は

「人生に失敗がないと、人生を失敗する。」です。

これからも福祉の心を持ち、「つくり、つくりかえ、つくる」を合言葉として社会へ、巣立っていく皆さんは、今後もその対象との関わりの中で生涯、大きく成長し続けるであろうと思います。様々な困難に立ち向かい、失敗しながらもすべての体験を人生の肥料とし、この富山福祉短期大学で学んだことをこれからも皆さんの専門分野と人生の中で「つくり、つくりかえ、つくり」続けていってください。

皆さんを今後もさらに大きく成長させる社会への旅立ちを心から祝福し、
式辞といたします。

令和二年三月十九日

富山福祉短期大学 学長 炭谷靖子